

# 琉球大学学術リポジトリ

## 学生スポーツ・ボランティア実践事例 RSLCの5年間の活動を振り返り

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2009-04-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 窪田, 誠志, 真栄城, 勉, 慶田花, 英太, 高良, 義樹, 上間, 達也, 重見, 有香, 備瀬, みずの, 島袋, 桂, 上間, 浩樹, 嘉手苺, 佑也, 知花, さやか, Kubota, Seiji, Maeshiro, Tsutomu, Kedahana, Eita, Takara, Yoshiki, Uema, Tatsuya, Shigemi, Yuka, Bise, Mizuno, Shimabukuro, Kei, Uema, Hiroki, Kadekaru, Yuya, Chibana, Sayaka メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/9669">http://hdl.handle.net/20.500.12000/9669</a>

## 学生スポーツ・ボランティア実践事例

RSLC の5年間の活動を振り返り

窪田 誠志\*\* 真栄城 勉\* 慶田花英太\*\*\* 高良 義樹\*\*\*  
上間 達也\*\*\*\* 重見 有香\*\*\*\*\* 備瀬みずの\*\*\*\*\* 島袋 桂\*\*\*\*\*  
上間 浩樹\*\*\*\*\* 嘉手苺佑也\*\*\*\*\* 知花さやか\*\*\*\*\*

### The Study Case of Student's Sports Volunteer Activities.

—Reviewing Practical Activities of RSLC for Five Years—

Seiji KUBOTA\*\*, Tsutomu MAESHIRO\*, Eita KEDAHANA\*\*\*,  
Yoshiki TAKARA\*\*\*, Tatsuya UEMA\*\*\*\*, Yuka SHIGEMI\*\*\*\*\*  
Mizuno BISE\*\*\*\*\*, Kei SHIMABUKURO\*\*\*\*\*, Hiroki UEMA\*\*\*\*\*  
Yuya KADEKARU\*\*\*\*\*, Sayaka CHIBANA\*\*\*\*\*

#### I. はじめに

近年、日本における大学を取り巻く環境は大きく変わりつつある<sup>1)</sup>。国公立大学の独立行政法人化や少子化の影響による大学全入時代などの影響により、従来の教育や研究だけではなく、地域貢献や社会貢献を視野に入れた取り組みが大学に求められてきている。

福島大学では教職員、学生を中心にしてスポーツをツールに地域貢献を行っている<sup>2)</sup>。その内容も健康教室などの従来の枠に捉われず、総合型地域スポーツクラブ設立支援や地方自治体からの委託事業など多岐にわたっている。その結

果、学生たちは大学で学んだ知識をもとに実際の現場で活用し、実践的指導力やコミュニケーションスキルの向上に努めることが可能となっている。地域貢献を行うことで大学と地域との間の障壁が薄くなるとともに、学生の実践力の向上も見込め、今後はこの観点での大学教育が進んでいくことが大いに考えられる。愛媛大学<sup>3)</sup>や鹿屋体育大学<sup>4)</sup>などでは、総合型地域スポーツクラブに大学院生や学生がクラブ運営や指導に積極的に関わっている実践が報告されている。

琉球大学では、2004年度に教育学部生涯健康

\* 琉球大学教育学部  
\*\* 琉球大学大学院  
\*\*\* 財団法人沖縄県体育協会  
\*\*\*\* 鳴門教育大学大学院  
\*\*\*\*\* RSLC 会員

教育コースと保健体育専修の学生を中心にスポーツ・ボランティア団体としてRSLC (Ryukyu Sports Life Communications)<sup>5)</sup>が設立された。当時、子どもたちの体力低下傾向に歯止めはかかるのか、運動のできる子とできない子の2極化、肥満児童の増加、生活習慣病予備軍の増加など子どもの健康問題がクローズアップされていた<sup>6)</sup>。さらに、生涯スポーツ社会の実現に向けての施策として総合型地域スポーツクラブの創設が各自治体で取り組まれた時期であった<sup>7)</sup>。学生や大学院生が、自分たちの学んできた専門知識を活かしてこれらの地域課題や社会的課題に取り組んだこの5年間の活動を振り返ることが、本実践報告の目的である。

## II. RSLC (Ryukyu Sports Life Communications) の活動理念と目的

RSLCの理念は、「①沖縄県内のスポーツ活動をサポートし、スポーツ振興に寄与する。②健康で活力ある社会を目指し、健康関連事業を行う。③スポーツ振興や健康関連事業を通して、より豊かな沖縄づくりを目指す」<sup>8)</sup>ことにある。RSLCでは、短期・中期・長期目標 (Table. 1) を掲げて過去5年間、活動を継続し、発展を遂げている。

【Table.1】短期・中期・長期目標

<p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ RSLCの活動に賛同する者を集める。</li> <li>・ RSLCのことを知ってもらうために学生や教員、各自治体のスポーツ担当部署等に啓蒙活動を行う。</li> </ul>
<p>【中期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諸関係団体（各自治体、スポーツ団体、企業等）とのネットワーク化を図る。</li> </ul>
<p>【長期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ事業を創造し、諸関係団体との連携事業を獲得する。</li> <li>・ 組織を継続的・発展的に行うためにNPO法人化を視野に入れる。</li> </ul>

またRSLCの活動目的は、沖縄県内のスポーツシーズ（資源）を有効に活用し、沖縄県のスポーツ振興や地域貢献に資するとともに、学生の実践的指導力の向上と、地域貢献・社会貢献のできる人材を育成することである。

## III. 活動実践

2004年度から始まったRSLCの活動も5年目を終え、これまでに下記のような事業を展開してきた (Table. 2)。

【Table.2】RSLCのこれまでの主な事業内容

年度	主 な 事 業
2004	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合型地域スポーツクラブ設立支援：佐敷町（現 南城市）</li> <li>・ 浦添市ふれあい車いすサッカー大会ボランティアスタッフ</li> </ul>
2005	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「馬天っ子スポーツ教室」</li> <li>・ 平成17年度 南城市体力向上実践事業生活習慣調査</li> </ul>
2006	RSLC「スポーツちむどんどん」事業 (SSF 笹川スポーツ財団助成)
2007	RSLC「スポーツちむどんどん」事業 (SSF 笹川スポーツ財団助成)
2008	RSLC「ちむどんどんちゅうらうみキッズ」事業 (SSF 笹川スポーツ財団助成)

### 【2005年度】

#### 「馬天っ子スポーツ教室」

馬天小学校では平日の放課後、スポーツ少年団などによって運動場や体育館が使用され、週末は管理者がいないなど一般の子どもたちの遊ぶ環境はあまりよくなかった。また週日、昼休み（45分）の時間にはクラス毎に交代で運動場や体育館を開放してはいるものの満足に活動できる環境ではなかった。そこで、子どもたちに体を動かすことの楽しさを感じてもらうためにスポーツ教室を開催し、スポーツ教室後においても継続して運動・スポーツを行うためのきっかけづくりをした。

1) 活動内容

- ・ 期間：2005年6月5日～2005年8月7日（毎週土曜日）計10回
- ・ 対象：馬天小学校児童70名（低学年41名、高学年29名：男31名、女39名）  
（年齢や体力を考慮して低学年と高学年に分けて活動を行った。）
- ・ 場所：馬天小学校体育館、馬天小学校運動場、馬天小学校プール
- ・ 共催：佐敷町（現 南城市）教育委員会
- ・ 活動種目：7種目

（アルティメット、グラウンドゴルフ、ソフトバレー、フットサル、水泳、ユニホック、ポートボール）

活動参加スタッフにはRSLCのスタッフ3名を中心に、琉球大学の教員、社会体育指導実習の3名の学生、さらに琉球大学保健体育専修・生涯健康教育コースの学生を中心とした16名の学生がスタッフとして参加した。

本活動を展開することで参加する子どもたちの意識がどのように変化するかをみるために、事業の中間及び最終日にアンケート調査を実施した<sup>8)</sup>。

① 「馬天っ子スポーツ教室は楽しかったですか」(Fig. 1)

中間及び最終アンケートにおいて度数の違いはあるものの、7割以上の子どもたちが楽しかったと答えている。しかし、中間においては8割の子どもが楽しかったと答えていたのに対し、

最終では7割に減っていたことはRSLCとして、反省する点であった。

馬天っ子スポーツ教室がRSLCにとっての初めてのスポーツ教室であったため、運営やプログラムに戸惑いがあった。また、時間的な面からもスタッフの意思疎通が困難な部分もあったため、今後スポーツ教室を開催する際には、種目やプログラム、子どもたちへの接し方も含め検討していく必要があった。

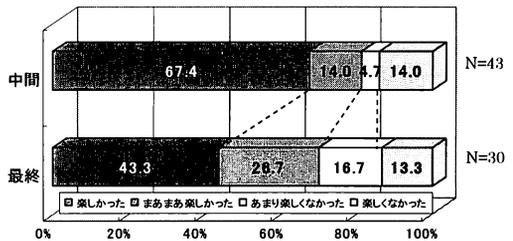
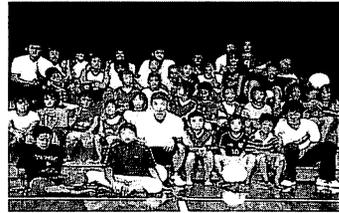


Fig. 1 馬天っ子スポーツ教室は楽しかったですか

② 「友達はたくさんできましたか」(Fig. 2)

中間・最終において多くの子どもたちが、友達ができたと答えている。しかし、この質問に

【Table.3】 2005 「馬天っ子スポーツ教室」活動内容

月	日	主な内容 (低学年)	主な内容 (高学年)	実施場所
6	5	アルティメット	アルティメット	運動場
	12	アルティメット	アルティメット	運動場
	19	ソフトバレー	グラウンドゴルフ	体育館、運動場
	26	グラウンドゴルフ	フットサル	運動場、体育館
7	3	水泳	ソフトバレー	プール、体育館
	10	フットサル	水泳	体育館、プール
	17	水泳	ユニホック	プール、体育館
	24	ポートボール	水泳	体育館、プール
	31	ポートボール	ポートボール	体育館
8	7	ポートボール	ポートボール	体育館

おいても、中間より最終の回答のほうが「できた」と答えている割合が減少している。その原因としては、中間アンケート時の方が始めて会ったことのある子どもたちが多いためであると考えられる。最終アンケート時には、ほとんどの子どもたちにおいて友達の数が増加しているために、必然的にこの質問に関しては減少すると考えられる。ただ、スポーツ教室を通して多くの友達ができただことは評価できる点であった。

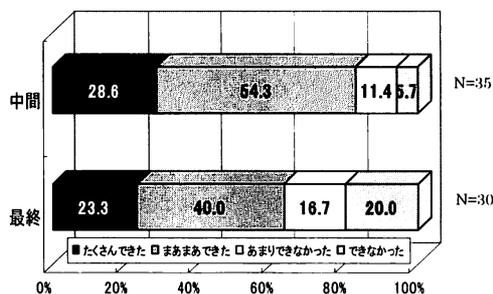


Fig. 2 友達はたくさんできましたか?

③「スポーツリーダーについてどう思いましたか。」(Fig. 3)

この質問に対しては、最終における結果の方がよく、中間では「優しかった」と答えた割合が8割弱だったものが、最終では9割以上の子どもたちが「優しかった」と答えている。この質問の回答に対する理由は分からないが、RSLCにとって好ましい結果であった。ただ、子どもたちにとっては、学生が指導者という立場より、一緒に遊ぶリーダーのような存在の方が良いのではないかという点も示唆された。しかし、スポーツリーダーの役割が曖昧だったことは明らかで、今後スポーツリーダーの役割や

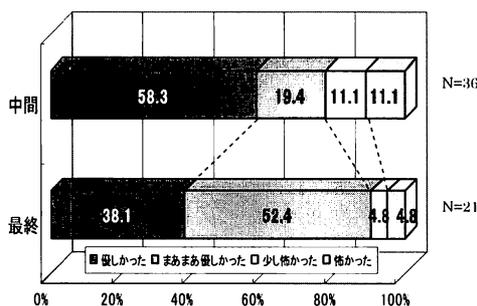


Fig. 3 「スポーツリーダーについてどう思いましたか」

立場について議論を重ねることが必要であると痛切に感じさせられた。

2) 運営の成果と課題

「馬天っ子スポーツ教室」を3ヶ月に渡り開催したが、子どもたちの意見は全体的に肯定的な意見が多数を占めた。実際にスポーツ教室実施中、スタッフの多くが子どもたちをまとめる際に苦労している場面が頻繁に見受けられたが、その反面、子どもたちは活動自体を楽しんでいた。しかしながら、運営方法やプログラム等の周知が行き届いていなかったことなど、スポーツ教室開催前の準備に関しては反省点が多く挙げられ、今後のスポーツ教室に活かしていくことが望まれた。

【2006年度】

1) 活動内容

SSF 笹川スポーツ財団からスポーツエイドの助成を初めて受けることが決まった2006年度は、定期スポーツ教室として「スポーツちむどんどん」事業を実施した。「馬天っ子スポーツ教室」と比べ、組織の活動を円滑にするために大学院生のリーダーを中心に学生ボランティアの確保とスポーツプログラムの充実が図られた。バンブーダンス、ドッチビーなどニュースポーツをはじめフットサル、車いすサッカーを取り入れるなど工夫を図った。また親子調理実習をプログラムに組み込むなど食教育の実践も行った (Table. 4)。

・スポーツ教室

スポーツ教室は2006年6月から2007年2月までの8ヶ月間、計13回行った。内容は夏に短期水泳教室を行い、その後はグラウンドゴルフやフットサル、ソフトバレーボール、キンボールなどのニュースポーツが中心であった。また、車いすサッカー大会にも出場し、車イス体験をするとともに、身体障害者との交流も深めた。

【Table.4】 2006「スポーツちむどんどん」事業 活動内容

月	日	主 な 内 容	実 施 場 所
6	17	第1回スポーツ体験活動	附属小学校体育館
	24	第2回スポーツ体験活動	体育館
7	15	ドッチビー	体育館
	29-31	短期集中水泳教室	プール
8	15-17	夏期スポーツキャンプ	県民の森（恩納村）
9	2	グラウンドゴルフ	運動場
	16	フットサル・キックベースボール	体育館
	30	フットサル・キックベースボール	体育館
10	7	栄養講習・親子調理実習	調理室
	14	グラウンドゴルフ	運動場
	28	長縄跳び・キックベースボール	運動場
11	11	車いすサッカー	体育館
	25	車いすサッカー	体育館
12	23	クリスマスパーティー	体育館
1	13	ソフトバレーボール	体育館
	27	ソフトバレーボール	体育館
2	10	キンボール	体育館

・野外体験活動（キャンプ活動）

2006年8月に2泊3日の日程でキャンプを沖縄県恩納村「県民の森キャンプ場」にて実施した。キャンプ生活は、テントを使用して宿泊し、野外炊飯など自炊による形式をとった。キャンプでの主要なプログラムは沢登りや登山、創作ダンス等であった（Table.5）。

2）運営の成果と課題

SSF 笹川スポーツ財団のスポーツエイドの助成を受けることで、プログラムを実施する際に必要な備品等の購入や実施プログラムを紹介するための通信の発行など、多くの面で充実が行えた。

しかし、「スポーツちむどんどん」事業への

【Table.5】 2006「スポーツちむどんどん」事業 キャンプ内容

時 間	1日目	2日目	3日目
6:00			
7:00		起床・体操・散歩	起床・体操・散歩
8:00			
9:00		創作ダンス練習	山登り
10:00			
11:00		流しそうめん台作り	昼食
12:00	キャンプ場到着・昼食	昼食	テント片付け
13:00	テント設置		解散式
14:00		自由時間	
15:00	自由時間	クラフト作り	
16:00	沢登り		
17:00		夕食作り	
18:00	カレーライス作り		
19:00		創作ダンス発表	
20:00	ナイトウォークラリー	キャンプファイヤー	
21:00	入浴	入浴	

参加者や学生ボランティアの確保、プログラム内容の工夫といった組織運営について議論する必要性を大いに感じさせられた。

【2007年度】

1) 活動内容

運動・スポーツを定期的に行っていない子どもたちを対象に引き続き「スポーツちむどんどん」事業<sup>9)</sup>を実施した。期間は2007年5月19日～12月15日までの約7ヶ月間であった。参加者が62名と予想以上に多かったために、低学年と高学年とに分けて活動を行った。内容は、

フットサルやタグラグビー、パークゴルフ等のニュースポーツを中心とした月2回のスポーツ教室（計10回）、夏休みを利用した短期水泳教室及び野外体験活動を実施した（Table.6,7）。また前年度同様に、身体障害者との交流を深めるために車いすサッカー大会にも参加した。さらに、秋には親子料理教室を開催し、「栄養の3色を学ぼう」をテーマに食育も行なった。

2) 運営の成果と課題

SSF スポーツエイドの助成2年目で、参加

【Table.6】 2007「スポーツちむどんどん」事業 活動内容

月	日	主 な 内 容	実 施 場 所
5	19	オリエンテーション	琉球大学附属小学校
	26	ドッチビー	運動場・体育館
6	9	アルティメット	運動場・体育館
	23	フットサル	体育館
7	7	フットサル	体育館
	23-26	短期水泳教室	プール
8	17-19	スポーツキャンプ	県民の森（恩納村）
9	8	グラウンドゴルフ	運動場
	15	車いすサッカー大会	浦添市民体育館
	22	タグラグビー	体育館
10	13	栄養講習会（親子料理教室）	宜野湾市中央公民館
	27	ユニホック	体育館
11	10	パークゴルフ	パークゴルフ場
	24	ソフトバレー	体育館
12	8	ウォークラリー	琉球大学
	22	クリスマスパーティー	体育館



【Table.7】 2007「スポーツちむどんどん」事業 キャンプ内容

時 間	1日目	2日目	3日目
6:00		起床	起床
7:00		朝食	パン作り
8:00		沢登り	テントの片付け
9:00	集合・出発		登山
10:00	到着	流しそうめんの準備	
11:00	昼食（お弁当）		
12:00	自由時間	昼食	昼食
13:00	テント設営		
14:00		タグラグビー	解散式
15:00	パークゴルフ		
16:00	入浴（シャワー）	野外炊飯（BBQ）	
17:00	夕食準備		
18:00	夕食		
19:00		キャンプファイヤー	
20:00	ナイトウォークラリー		
21:00	星座観察	入浴	
21:00	グループ反省会	グループ反省会	
22:00	就寝	就寝	



募集を呼びかける際に、昨年と比べポスターやチラシの質・量ともに向上し、参加人数の増加につながったなど成果も大きかった。プログラムに関しては、特に、低学年の人数が多く不安な面もあったが、定期スポーツ教室を始め、短期水泳教室や野外体験活動、栄養講習会・調理実習等を通し、前年度よりスタッフを増員することができ、懸念された低学年への指導も充実したものとなった。また、前年度と比較して教室で使用する道具の購入や施設の借用等ハード面での充実、さらに、教室で使用する資料や毎回の活動通信等の広報面が充実するなどソフト面での向上もみられた。新たな試みとして、6月23日の「慰霊の日」に恒久平和を願って実施された「ピースフル駅伝」（保健体育専修学生主催事業）や広大な大学構内を散策するウォークラリーや、タグラグビーなども実施した。

助成事業の実施による具体的な成果は、「前年度の反省を活かし、募集段階での広報活動を強化した結果、参加者が18名から62名に増加したこと。クラブ活動等に加入していない子どもたちに対し、運動・スポーツを行う機会を与えることができたこと。また、休日の朝ということもあり、休日の規則正しい生活習慣の形成に貢献できたこと」といえる。



## 【2008年度】

### 1) 活動内容

RSLCの中心的な活動として定着しつつあるスポーツちむどんどの活動を今年度から海辺でのスポーツ活動を取り入れ、「ちむどんどんちゅうらうみキッズ」<sup>10)</sup>と名称を変更して事業を行った（Table. 8）。海辺で実施することで、沖縄の自然環境（海が近くにあり、砂浜も多い）やライフセービング（自分の身は自分で守る）等、自然体験活動プログラムを実施した。今年度も活動を実施するにあたり、SSF 笹川スポーツ財団よりスポーツエイドの助成を受けた。

#### ・サマーキャンプ

「ちむどんどんちゅうらうみキッズ」の活動の中でメインプログラムは2008年8月20日（水）～8月22日（金）の2泊3日で渡嘉敷島にて行われたサマーキャンプ（Table. 9）である。

### 2) 運営の成果と課題

SSF スポーツエイドの助成3年目ということもあり、前年度と比較して大幅にプログラムの充実が図ることができた。海辺でのプログラムではビーチサッカーやビーチドッジボール、ビーチフラッグなどのスポーツ活動と同時に、環境保護の観点からもビーチクリーニングを実施した。海辺でのプログラムを実施するにあたり、沖縄ライフセービング協会からライフセービング講習を受け、スタッフの安全面での意識の向上を図った。また今年度は野外体験活動を国立沖縄青少年交流の家（渡嘉敷島）で行い、カヌーや星空観察、野外炊飯など日常では行うことが難しいプログラムも実施することができた。

海辺でのプログラム実施ということで安全面に特に配慮する必要があり、保護者に陸上からの監視などサポートを依頼した。また活動内容を理解してもらうためにプログラム実施日に配布している「ちゅうらうみ通信」の発行回数を増やした。その結果、今年度は保護者の方々から多くの協力を得られ、円滑にプログラムが展開できた。

【Table.8】2008「ちむどんどんちゅうらうみキッズ」事業 活動内容

月	日	主 な 内 容	実 施 場 所
5	10	ライフセービング講習会	西原マリナーパーク
	24	オリエンテーション	琉球大学第二体育館講義室
	31	プール講習	琉球大学プール
6	14	プール講習	琉球大学プール
	21	プール講習	琉球大学プール
	23	ピースフル駅伝	南山カントリー⇒琉球大学
7	12	ビーチプログラム	西原マリナーパーク
	26	ビーチプログラム	西原マリナーパーク
8	9	ビーチプログラム	西原マリナーパーク
	20-22	サマーキャンプ in 渡嘉敷島	国立沖縄青少年交流の家
9	27	ビーチプログラム	西原マリナーパーク
10	11	ビーチプログラム	西原マリナーパーク
	25	ビーチプログラム	西原マリナーパーク
11	8	栄養講習会・調理実習	宜野湾市中央公民館
	15	ウォークラリー in 琉球大学	琉球大学
12	6	クリスマスパーティー	琉球大学第二体育館講義室



【Table.9】2008ちむどんどんちゅうらうみキッズ キャンプ内容

時 間	1日目	2日目	3日目
6:30		起床	起床
7:00		朝のつどい・清掃	朝食
8:00		朝食	テントの片付け
9:00	集合・出発式	海洋研修所へ移動	ビーチクリーニング
10:00	泊港発	テント設営	大型カヌー
11:00	渡嘉敷港着・入所式	野外炊飯	水泳
12:00	昼食	(カレー)	昼食
13:00	グループ活動①	グループ活動③	グループ反省会
14:00	(グランドゴルフ)	(グループレク練習)	退所式
15:00	グループ活動②	ビーチドッジボール	渡嘉敷港発
16:00	(グループレク練習)	水泳	泊港着・解散式
17:00	夕べのつどい	野外炊飯 (BBQ)	
18:00	入浴		
19:00	夕食	シャワー	
20:00	ナイトウォークラリー	キャンプファイヤー	
21:00	星座観察	グループレク発表	
	グループ反省会	グループ反省会	
22:00	就寝	就寝	



#### IV 児童と保護者の感想

2006年度の「スポーツちむどんどん」事業から2008年度の「ちむどんどんちゅうらうみキッズ」事業に至る3年間、プログラムの最終日に参加した児童及びその保護者に活動に参加しての感想や意見などを記入後、提出してもらった。

##### 1) 児童の感想

児童の感想は、「楽しかった」や「スポーツが好きになった」、「新しい友達できてよかった」という意見が多数を占めていた。高学年になると達成感を味わえたことやスタッフへの感謝の気持ちも記されていた。児童がプログラムを有意義なものとして捉えており、総じて事業に関して概ね好評を得ていると推察される。

##### ～低学年～

- 元気いっぱい1年間遊んで楽しかったです。
- ゴムダンが一番楽しくて、スポーツだけ遊びたいでとっても楽しかったです！
- また参加してやりたいです。
- プールやとび箱や縄跳びを教えてくれてありがとう。
- 来年は1回も休まないようにしたいです。
- いろいろな人と友達になって楽しかった。
- キャンプが楽しかった。
- 僕はスポーツが好きなので、ちむどんどんに入って良かったです。
- キャンプとか水泳教室などがおもしろかった。来年も入りたい。
- いっぱい思い出がくれました。キャンプファイヤーの火の女神がおもしろかったな。
- キャンプに行って、夜に流れ星を3つ見ました。うれしかったです。
- 海を泳いだり、キャンプでテント立てをしったりして楽しかったです。ちむどんどんにはいる前はビーチサッカーやドッジボールはあまり好きじゃなかったけど今ではとっても大好きになりました。来年もやりたいです。

##### ～高学年～

- 車イスサッカーやキャンプが楽しかった。
- 他の学校の子と友達になれたり、いろいろなスポーツができたりして楽しかった。
- 水泳で1,000m泳げたのでよかった。ちむどんどんをやる前はサッカーにあまり興味を持ってなかったけれどちむどんどんに入ってサッカーを好きになりました。リーダーや師匠に本当にお世話になりました。ありがとうございました。

## 2) 保護者の感想

保護者からは子どもたちのニーズをとらえたプログラム（ビーチプログラムや水泳、キャンプ、料理教室、ニュースポーツなど）が好評を得ている。また、異学年交流ができたことや異

なる学校の友達ができたとしたことなど、いつもと違った刺激を得ることができたといった感想も寄せられている。これからのことから、保護者自身も子どもたちの居場所づくりとして本事業の重要性を認識している。

### ～保護者～

ちむどんどの活動を通じて、子どもたちには多くの貴重な体験をさせることができました。ビーチでのスポーツや清掃、夏のキャンプ、調理実習など、家族だけでは行わないであろう行事の数々に参加でき、いろいろなことを学ばせることができたものと思っております。また、通う小学校や学年も異なる子どもたちとスポーツや活動を行うことによって社会性も身に付いたのではないかと考えております。

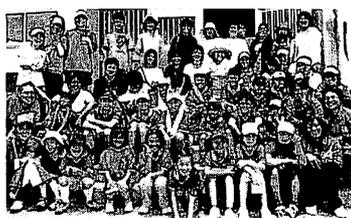
活動の後半、子どもたちも慣れてしまったせいか、お兄さん、お姉さんたちの言葉に従わない、勝手に遊ぶ等の「甘え」的な行動も見えた気がするので、指導はもう少し厳しくていいのかなと個人的には思いました。8ヶ月間、親子揃って本当にお世話になりました。ちむどんどんは素晴らしい活動ですので、来年も是非参加させていただきたいです。(Y・N)

初年度から参加させていただきました。「ピースフル駅伝」はすごく意義のある企画だと思います。キャンプは子どもだけの参加でしたが、いつも一緒にいるのが当たり前で子どもが一人でもいない状況は新鮮です。淋しくもあり、ちょっぴり嬉しくもあり。子どもにとっても親と離れていろいろなことに挑戦するなんて素晴らしいです。

休みの日にも学校の友達と会える時間をプレゼントしてくれる。しかも異学年とも交流できる。そして大学生のお兄さん、お姉さんと接することは、やはり普段と違った刺激であり、子どもたちは無意識にいろいろなことを吸収しているのではないかと思います。この活動が終わってしまうのはもったいないなと思います。スタッフのみなさん本当にありがとうございました。(A・N)

2年目のちむどんどん参加となり、今年は昨年よりも少人数ということもあってか子どもたちもとても馴染んで毎回楽しく関わることができてよかったと思います。特に、今年は海が中心で子どもたちも水泳を習い始めて2年目だったので余計に良い刺激となりました。

来年度からの運営にあたり、資金をどれだけ負担すればいいのか、組織としてどんな点を保護者が担えばいいのかなど具体的な話の場を設けていただければ来年以降参加したい家庭は参加していくと思いますので、続けていくために何が必要なのか、何が問題か教えていただければと感じております。地域や学校でない広い関わりができて、とても意義のある集団になると思っていますので、できる限りサポートしたいです。(M・I)



## V まとめ

2004年度から始まった RSLC の活動も5年目を終えようとしている。現在、RSLC の活動の中心である定期スポーツ事業「スポーツちむどんどん」も多くの方々のご協力・ご理解により無事に3年目を終えることができた。

学生にとって実践教育の重要性は今後、更に増すことは間違いない。この RSLC の活動は学生が企画・運営まで行う、学生のボランティア組織である。この活動を通じて学生たちは子どもたちへの指導や組織運営について直に体験できる。つまり、生きた素材に直接ふれることができている。この観点からもこの活動を継続していくことが望ましく、また参加者及びその保護者から望む声も非常に大きい。

しかしながらこの定期スポーツ事業も大きな岐路に立たされている。この活動を行うにあたり、SSF 笹川スポーツ財団よりスポーツエイドの助成を受け、資金的な面で大きなサポートを受けてきた。そのため、参加者からは少額の会費徴収で活動を行うことが可能であった。しかしながら、今後は、RSLC には自主的な運営、つまり財源やスタッフの確保も行わなくてはならないといった組織を運営する上での大きな問題に直面している状況である。

自立した組織に発展させるのであれば、組織マネジメントに関する知識も今以上に求められるといっても過言ではないだろう。財源確保などのプロセスを学ぶことも学生たちの将来に大いに役立つことが十分に考えられる。学生に今、求められているのは一つでも多くの実践的な現場を経験し、どれだけ社会のために貢献できるかということではないだろうか。

## 引用・参考文献

- 1) OECD 編 相原総一郎, 出相泰裕, 山田玲子訳 (2005): 地域社会に貢献する大学 (高等教育シリーズ)
- 2) 福島大学スポーツユニオン (2004): スポーツによる地域貢献で大学は変わる—生き生き地方国立大学からのメッセージ
- 3) 愛媛大学総合型地域スポーツクラブ: <http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~ai-spo/>
- 4) NIFS スポーツクラブ: <http://sc.nifs-k.ac.jp/>
- 5) RSLC: <http://www.rslc21.edu.u-ryukyuu.ac.jp/HPfile/rslectop.htm>
- 6) 文部科学省 (2002): 子どもたちの体力向上のための総合的な方策について (答申)
- 7) 文部科学省 (2000): スポーツ振興基本計画
- 8) 慶田花英太 (2005): スポーツ振興支援組織設立に関する事例研究～Ryukyuu Sports Life Communications の事例～平成16年度琉球大学教育学部生涯教育課程生涯健康教育コース卒業論文
- 9) RSLC (2008): 平成19年度笹川スポーツ財団スポーツエイド助成 RSLC「スポーツちむどんどん」事業実践報告書2007
- 10) RSLC (2009): 平成20年度笹川スポーツ財団スポーツエイド助成 RSLC「ちむどんどんちゅらうみキッズ」事業実践報告書2008 (発行予定)